**紅葉山庭園**

紅葉山庭園では、駿河国（現静岡県）の名所がミニチュアで再現されている。園内の小径は、里、海、山里、山の4つの風景をイメージして設計されている。

入口の門をくぐったところにある木造の四阿は、里の風景をイメージしている。池に面した四阿と菖蒲の間を縫うように架かるジグザグ橋は、9世紀に書かれた伊勢物語の一場面を想起させる。

池は海を表し、水中や岸辺の岩は伊豆半島の象徴的な海岸風景を連想させる。例えば、四阿の向かいにある白い石は、三保の松原の松並木の海岸を思わせる曲線である。池の向こう側にある富士山のミニチュアは、三保の松原から見える実際の富士山と共鳴している。

山庭の小道は、2つの滝のそばを通る。1つは落差のある滝、もう1つは緩やかな滝で、どちらも紅葉や蔦に縁取られている。滝のそばには、徳川家の家紋にもなっている葵の花が咲いている。

庭園内の茶室では、畳ではなくテーブルと椅子でお茶とお菓子を楽しむことができるある立礼席がある。また、雲海、清月庵の両茶室は、イベント時以外は一般公開されている。

この庭園は、2001年にかつての城の台所の跡地に造られた。